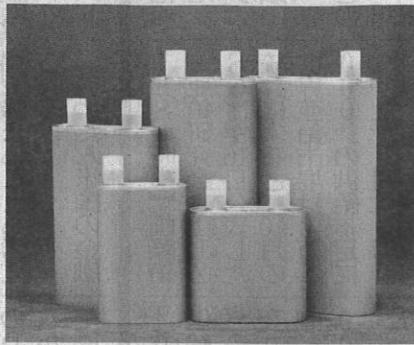


GSユアサの宇宙用リチウムイオン電池

2年後総容量倍増見込む



宇宙用リチウムイオン電池

GSユアサは17日、子会社のジーエス・ユアサテクノロジー（本社：東京都府知山市、関口昌秀社長）が製造する宇宙用リチウムイオン電池の採用数が110機を超えたと発表した。

人工衛星や宇宙ステーション補給機の軌道へ投入された総容量は世界トップクラスの2.3が、現時となり、2017年末までにはほぼ倍増が見込まれている。

同社グループは98年から宇宙用リチウムイオン電池を製造。11年に発売した第3世代の電池では大幅な性能向上を実現し、軌道上での異常や不具合ゼロの実績が認められて、有人対応ミッションへの採用も決定している。